

宮古地区潜水病予防学習会

宮古支庁農林水産振興課 南 洋一

1. 課題名

平成11年度潜水病予防学習会

2. 目的

宮古地区では潜水器漁業、追込網漁業等の漁業従事者の間で潜水病が大きな問題となっている。特に宮古地区の場合はアギヤー（追込網）あるいは電灯潜りなどで過酷な潜水作業と知識不足から潜水病になることが多く、一方、救急1人用チャンバー（再加圧装置）はあるが専門医がいないなど問題は深刻である。

そこで高気圧治療の専門家に潜水病の予防対策などに関する講義を行ってもらい、かつ実態調査を行ってもらうことにより宮古地区の潜水病対策を大きく前進させる目的で潜水病予防学習会を行った。

3. 交流年月日

平成12年1月29日（土）

4. 交流場所

平良市漁協2階会議室

5. 参加者

平良市漁協、伊良部町漁協の潜水器漁業従事者

平良市漁協職員

伊良部町役場職員

ダイビング業者、ダイビングインストラクター

宮古支庁職員

6. 協力者（講師）

井上 治（琉球大学医学部高気圧治療部助教授）

7. 交流内容

講義の内容を要約すると以下のとおりである。

(1) 講演内容

素潜りの場合でも窒素が貯まって軽い潜水病になる可能性がある。その場合、息苦しく感じなくても息こらえが長すぎると浮上中に意識がなくなり危険であり、風邪で耳抜きができにくいときは浮上の際に回転性のめまいを生じ、危険である。

圧縮空気を吸って潜る場合、30m以上では窒素を多く取り込むことにより窒素酔いが起こる。50m以上では気持ちが大きくなって、むしろ危険感がなくなること、また酸素を多く取り込むことにより全身けいれんが起こる場合があることなど、注意が必要である。

潜水病は圧縮空気を吸うことで窒素が体の脂肪に溶け込み、深く、長く潜った場合、浮上するときに、溶け込んだ脂肪から気泡（あぶく）が発生し、それが脳や脊髄、肺などの重要臓器を傷害する病気である。自己流のフカシ（潜水病の症状が出てから、さらに潜り直すこと）は窒素が余計にたまり、潜水病を悪化させることになるので、一刻も早く、治療施設へ行き、チャンバーによる再加圧治療をうけることを勧める。

琉大病院で昭和60年より治療した潜水病の患者は131人で、その中で脊髄麻痺（手

足が動かさない、尿が出ない)、チョークス(窒息状態)、意識障害などの重症の41人を検討したところ、ボンベ1~2本でも器材の故障で急浮上した場合、フカシをした場合、10m以内でも5時間以上の潜水で潜水病になっていた。また4本以上潜水の場合、30m~40m以上の潜水の場合でさらに重傷の潜水病にかかっていた。潜水病の予防には、できるだけ潜水間隔を長く取り、休息中に温かい飲み物をとって体を暖め、脱水を防止することを勧める。

治療のために飛行機(自衛機やヘリ)で来ると、上空で気圧が低くなり潜水病が更に悪化するため、発症から少なくとも12時間は、近くの宮古病院などのチャンバー治療をしてもらう必要がある。しかし1人用のため輸液とか長時間の治療は行えないので、重症例ではその後、本島の大型チャンバーでの治療が必要となる。

最近、航空機に積み込んで加圧できる布製のバッグが開発され、欧米では潜水病患者の航空搬送にも使われているが、この折りたたみ式簡易加圧装置があれば、発症後数時間以内航空搬送も可能で、医師が乗り込めば治療を受けながら大型チャンバー内に運び込み、続けて再加圧治療もできる。

8. 交流所感

平成11年度潜水病予防学習会開催にあたって最大の心配は講師を引き受けてくれるかどうか

であった。そのために事業計画書を持って琉球大学病院に行き、井上治先生に会って話をした。事業計画書を渡すといきなり添削が始まり、半分近くが訂正されることになった。そして訂正したものを送ってくれということになった。その後、電話やFAXでのやりとりがあったあと開催が決まった。学習会が終わって一番感じたのは先生の専門知識の深さ、患者を見抜く洞察力の深さ、研究に対する熱意の深さであった。また一般の人に比べて雰囲気相当変わっていたようにも感じた。つまりいい意味での変人だと思った。多少どころか相当変わっていないといい研究はできないと思う。これからも大学が持つ特異性を理解しながら、行政は民間のために橋渡しをしていかなければならないと思った。

講義の内容についてはフカシ(潜水病の症状が出てから、さらに潜り直すこと)は窒素が余計にたまり、潜水病をさらに悪化させるというのは意外に感じた。これについてはなんらかの方法で漁業者に周知させていくつもりである。そして宮古地域における専門医と大型チャンバーと折りたたみ式簡易加圧装置の必要性を感じた。宮古支庁の最重要課題の一つとして県立宮古病院の早期移転・新築、機能の充実を図ることがあるので、支庁の振興総務課とも今後調整しこれらも構想の中に取り入れていく。また宮古病院管理課に転出した長嶺巖主幹にも今回の学習会のことについては再確認する。

最後に今回の潜水病予防学習会で講師を引き受けて下さった井上治先生に深く感謝します。

